



東洋水産から株主の皆様へ

第57期 中間事業報告書

2004年4月1日～2004年9月30日



東洋水産株式会社

証券コード:2875

新しい時代に愛される商品づくりを通 当社はカップ麺市場の未来をリードし

お客様のニーズにお応えして、タイムリーな商品を市場に投入。
カップ麺のリーディングカンパニーとして、
こだわりのある新しいテイストを開発していきます。

当社の事業フィールドである即席麺市場は、現在国内では年間約50数億食の需要があり5,000億円市場に達するといわれています。また世界的規模では年間約650億食という巨大なマーケットを形成しています。こうした中で、お客様に「より良い安全な商品をお届けする」、「付加価値の高い愛される商品を提供する」という2点は、当社における永遠の使命ともいえます。カップ麺のリーディングカンパニーとして、私たちは常に新たなテイストを生み出す努力を続けております。

市場の流れと読み

カップ麺は単なる即席麺ではなく、食生活の志向やニーズと深く連動しています。食のトレンドをどう捉えるかが、今後を予測するうえで重要なカギとなります。まさに、お客様の動向一つひとつが開発の源泉になるといえます。

カップ麺への取り組み

現代は、お手頃価格なカップ麺が根強いファン層を獲得する一方で、高価格であっても、本格的で付加価値の高い味わいが求められています。当社では、このような新しい視点からカップ麺を捉え直し、新たな価値を持った商品の開発とラインナップの発展に取り組んでいます。

2方向戦略とこれから

これまで幅広い層の方にご支持をいただいている和風路線の定番商品に加え、高付加価値路線の第一歩として誕生したのが、高価格帯の「TAKUMI」です。今後はこの2つの体系をベースに戦略的な商品づくりを展開し、マーケットシェア拡大を図っていきます。

「TAKUMI」開発担当者に聞く

1 日5〜6食を食べ歩くことも日常茶飯事。磨きあげられた舌がつくりだした究極の味。

発案レベルでは、1カ月に約30品目がテーマに挙げられ、それを厳しく吟味し、候補として残されるのが10品目程度です。そこからどの商品を開発すべきか、本格的な絞り込みに入ります。毎月これだけの数の開発案件となるわけですから、そのために研究スタッフが1日に5〜6食の麺類を食べ歩くのは日常茶飯事といえます。店に入ってスープを一口する、それだけでダシの素材やブレンドの割合などを利き分けることができ、さらにその感性に磨きをかけることも大切な

仕事です。

今回の「TAKUMI」も、こうした足と舌による調査から生まれました。「炭火炙り巻チャーシュー麺」では、巻チャーシューを実現する製法の確立までに約2年の歳月を要しました。「えびワニタン麺」では、新鮮なえびの具材を4分でいかに戻すかが至難の業でした。なめらかな皮に包まれたポリウム感溢れるジューシーな味わいは、これまでにはない醍醐味だと思います。



じて、 ていきます。

「高付加価値路線」と「和風路線」。2方向でニーズを捉える戦略商品・定番商品。

■ スープ・具、そして麺まですべてが「TAKUMI」。高価格帯カップ麺市場を活性化する新しいタイプの真打ち登場！

お客様に付加価値の高い本格的なラーメンを・・・という発想から生まれたのが「TAKUMI」です。お店で食べるラーメンより旨く、容器の形状も含めた本格感溢れる味づくりがテーマとなりました。高価格帯カップ麺にはいくつかの方向がありますが、具材やスープに特化しすぎず、ラーメンの4大要素（スープ、具、麺、容器）の上質化とバランス感覚のあるこだわりを追求することで、長く愛されるロングラン商品としてのポジションを目指しました。

ラーメンとしての完成度と満足度を追求。「匠」を競った2つの個性。



匠<TAKUMI>
炭火炙り巻チャーシュー麺 醤油



匠<TAKUMI>
えびワンタン麺 塩

■ 「いつでも美味しい」には理由がある。発売以来、多くのファンを引きつける「和風カップ麺」。

定番の和風路線・ロングラン商品は、現在でも継続した市場調査が行われ、「いまいちばん親しまれる味」を目指して何度となくリニューアルがなされています。たとえば「赤いきつねうどん」は、今年、従来より厚みがありコシを強くした麺に改良されました。「緑のためき天そば」は小エビたっぷりの食感の良い天ぷらに仕上げられました。タイムリーな改良とリニューアルの実施で、2方向の戦略における安定した収益源を担っています。



「赤いきつねうどん」

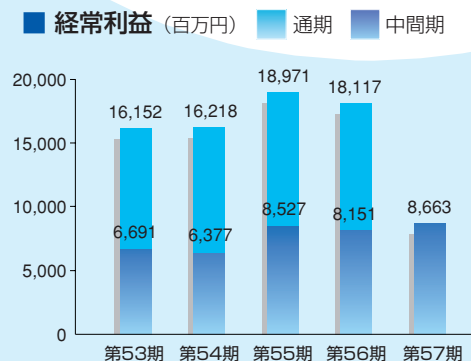
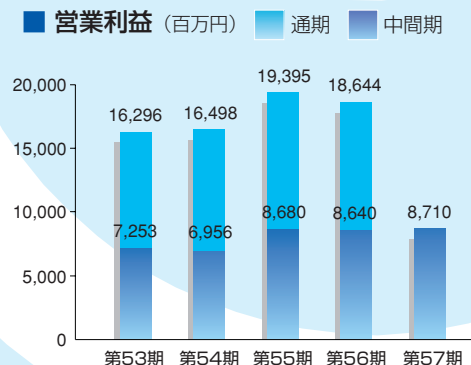
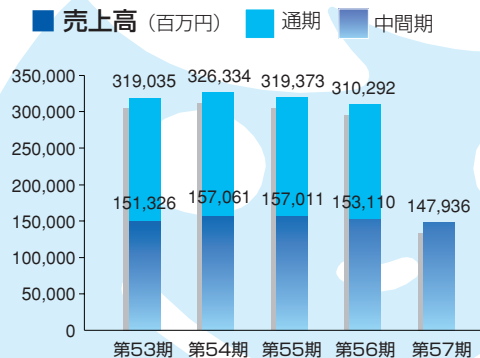


「緑のためき天そば」



「あつあつ豚汁うどん」

連結決算ハイライト



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、日頃よりご支援とご厚情を賜り心より感謝申し上げます。

さて、当社第57期の中間決算を終えましたので、営業の概況をご報告申し上げます。

当中間期の概況(連結)

当食品業界においては、個人消費の緩やかな回復傾向が見られるものの、商品単価の下落が続き、販売競争はますます厳しくなっております。また、米国産牛肉のBSE問題、東アジア地域での鳥インフルエンザの発生等により、当業界は従来以上に安全面への配慮を求められております。

そのような状況の中、当社はトレサビリティの推進、品質管理の徹底などにより、安心して購入していただける商品作りに取り組んでまいりました。また厳しい販売競争に対応するため、物流・生産体制の再構築を引き続き行い、より一層のコスト削減ならびに積極的な営業活動を推進してまいりました。

以上の結果、売上高は前中間期と比べ、3.4%減収の1,479億36百万円、経常利益は6.3%増益の86億63百万円、中間純利益は特別利益に厚生年金基金代行部分返上益69億34百万円を計上したことにより、特別損失に固定資産の減損会計の早期適用に伴う減損損失14億21百万円を計上したものの75.5%増益の72億81百万円となりました。

通期の見通し(連結)

当業界は国内外を問わず競争激化から販売価格の低価格化傾向は継続し、厳しい市場環境が継続するものと思われます。そのような状況の中、当社は消費者ニーズを捉えた商品の開発に努め、高付加価値の商品を提案していくことで、前期を上回る業績の達成を目指しております。また費用面でも、物流・生産体制の再構築を進め、徹底したコストの削減、費用の効率的な活用に注力していく所存であります。

以上により、通期の売上高は3,120億円、経常利益は185億円、当期純利益は127億円を見込んでおります。

2004年12月



代表取締役社長
堤 殷



セグメント情報

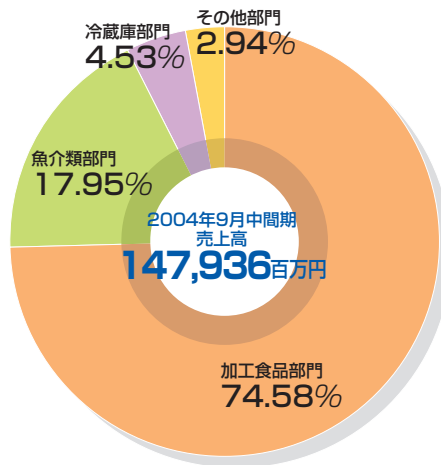
事業セグメント別売上高

■ 加工食品部門



加工食品部門の主要事業である国内即席麺事業の売上は、全般的に猛暑の影響を受け、厳しい環境の中、カップ麺では「黒い豚カレーうどん」の営業活動の強化等によって大幅に伸長したことにより他の和風麺の不振をカバーし和風麺全体で前年並を確保しました。焼そば類も堅調に推移しましたが、ノンフライ麺の「麺づくり」が減収になったことや高価格帯商品の対応が遅れたことにより、カップ麺全体で低調な結果となりました。袋麺ではノンフライシリーズの「昔ながらの中華そば」が順調に推移し、また「冷しラーメン」が大幅増となりましたが、その反面暑さのために家庭において鍋の使用を控えるなどの傾向もあり苦戦を強いられ、袋麺全体で微減となりました。

生麺事業の売上は、猛暑の影響により、「冷しラーメン」が好調に推移しま



したが、「うどん」「ラーメン」等が減少したことにより全体では微増となりました。

冷凍食品事業の売上は、厳しい価格競争の中、冷凍麺は微増となりましたが、業務用食材が順調に推移しました。

その結果、加工食品部門全体の売上高は、1,103億39百万円となりました。

■ 魚介類部門



魚介類部門は、消費低迷ならびに魚価下落の影響もあり、鯖・海老・魚卵等の取扱金額が減少し、売上高は265億52百万円となりました。

■ 冷蔵庫部門



冷蔵庫部門は、顧客の在庫圧縮の動きが依然として続いており、またBSEや鳥インフルエンザの問題による畜肉の取扱量の減少と厳しい状況の中、代替貨物の集荷に努めた結果売上高は66億95百万円となりました。

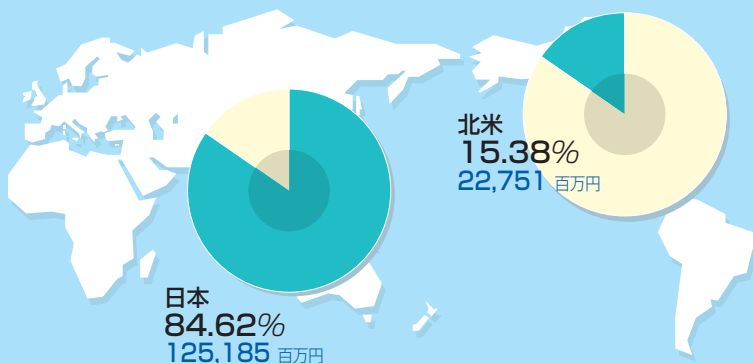
■ その他部門

その他部門は、化粧品製造販売ならびに不動産賃貸等が主であります。化粧品製造販売の国内連結子会社が売上好調でありましたが、カナダ産・米国産牛肉の輸入販売を行う国内連結子会社の売上が減少したこと、ペット事業撤退に伴う国内連結子会社の売上が減少したことにより、売上高は43億48百万円となりました。

所在地別売上高

日本は、魚価の下落及び猛暑の影響により即席麺事業が伸び悩んだこともあり、売上高は1,251億85百万円となりました。

北米は、即席麺事業が引き続き堅調に推移しており、売上高は227億51百万円となりました。





中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当中間期末 2004.9.30	前中間期末 2003.9.30	前期末 2004.3.31
資 産 の 部			
流動資産	98,097	96,085	97,442
現金及び預金	26,487	23,407	28,881
受取手形及び売掛金	40,414	43,023	40,568
たな卸資産	24,486	23,133	20,842
繰延税金資産	2,085	1,726	1,976
その他	6,108	5,083	6,270
貸倒引当金	△1,484	△289	△1,096
固定資産	120,655	126,777	124,937
有形固定資産	97,998	101,653	98,770
建物及び構築物	41,219	43,609	41,499
機械装置及び運搬具	20,622	21,532	20,496
土地	33,503	34,879	34,776
建設仮勘定	1,471	462	854
その他	1,180	1,169	1,142
無形固定資産	2,332	2,303	2,508
投資その他の資産	20,324	22,820	23,658
投資有価証券	15,709	14,853	16,243
繰延税金資産	3,211	6,352	5,839
その他	1,405	1,614	1,577
貸倒引当金	△1	△0	△2
資産合計	218,752	222,863	222,379

(単位：百万円)

科目	当中間期末 2004.9.30	前中間期末 2003.9.30	前期末 2004.3.31
負 債 の 部			
流動負債	56,902	52,621	48,579
支払手形及び買掛金	19,507	20,343	18,918
短期借入金	6,206	10,445	8,410
一年以内に返済予定の長期借入金	189	1,530	189
一年以内に償還予定の社債	10,000	—	—
未払費用	15,176	15,712	16,220
未払法人税等	2,632	2,430	3,302
未払事業所税	95	28	56
未払消費税等	213	703	750
返品調整引当金	7	7	6
その他	2,873	1,421	724
固定負債	37,170	57,087	56,718
社債	20,000	30,000	30,000
長期借入金	775	1,354	1,240
繰延税金負債	2,234	2,110	2,196
退職給付引当金	13,436	21,310	21,722
役員退職慰労引当金	611	562	613
債務保証損失引当金	—	1,535	816
その他	112	214	129
負債合計	94,073	109,709	105,297
少数株主持分			
少数株主持分	8,613	7,598	7,856
資 本 の 部			
資本金	18,969	18,969	18,969
資本剰余金	20,155	20,155	20,155
利益剰余金	81,473	70,550	75,482
その他有価証券評価差額金	1,008	433	1,374
為替換算調整勘定	△2,664	△2,778	△3,903
自己株式	△2,877	△1,776	△2,853
資本合計	116,065	105,554	109,225
負債、少数株主持分及び資本合計	218,752	222,863	222,379

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期 2004.4.1~2004.9.30	前中間期 2003.4.1~2003.9.30	前期 2003.4.1~2004.3.31
売上高	147,936	153,110	310,292
売上原価	96,934	101,929	203,747
売上総利益	51,002	51,180	106,545
販売費及び一般管理費	42,292	42,540	87,900
営業利益	8,710	8,640	18,644
営業外収益	670	630	1,300
受取利息	93	54	119
受取配当金	123	120	169
賃貸収入	169	203	396
雑収入	283	252	615
営業外費用	716	1,119	1,827
支払利息	321	364	699
賃貸原価	153	212	377
為替差損	1	449	487
雑損失	240	92	262
経常利益	8,663	8,151	18,117
特別利益	8,065	160	1,137
固定資産売却益	1	10	26
投資有価証券売却益	70	112	334
貸倒引当金戻入額	94	—	—
債務保証損失引当金戻入額	816	28	747
厚生年金基金代行部分返上益	6,934	—	—
その他の特別利益	148	9	30
特別損失	3,016	366	1,919
固定資産売却却損	258	168	586
投資有価証券評価損	1	130	288
貸倒引当金繰入額	769	—	855
関係会社整理損	340	—	—
減損損失	1,421	—	—
その他の特別損失	226	67	189
税金等調整前中間（当期）純利益	13,712	7,946	17,336
法人税、住民税及び事業税	5,528	3,342	7,447
法人税等調整額	—	—	△45
少数株主利益	903	455	852
中間（当期）純利益	7,281	4,148	9,081

中間連結剰余金計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期 2004.4.1~2004.9.30	前中間期 2003.4.1~2003.9.30	前期 2003.4.1~2004.3.31
資本剰余金の部			
資本剰余金期首残高	20,155	20,155	20,155
資本剰余金中間期末（期末）残高	20,155	20,155	20,155
利益剰余金の部			
利益剰余金期首残高	75,482	68,353	68,353
利益剰余金増加高	7,281	4,231	9,163
中間（当期）純利益	7,281	4,148	9,081
連結子会社減少に伴う増加高	—	82	82
利益剰余金減少高	1,290	2,034	2,034
配当金	1,229	1,766	1,766
取締役賞与	54	133	133
監査役賞与	6	8	8
連結子会社増加に伴う減少高	—	125	125
利益剰余金中間期末（期末）残高	81,473	70,550	75,482

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期 2004.4.1~2004.9.30	前中間期 2003.4.1~2003.9.30	前期 2003.4.1~2004.3.31
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,465	6,731	21,793
（うち、減価償却費）	(4,052)	(4,167)	(8,606)
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,913	△3,921	△9,312
（うち、有形固定資産の取得による支出）	(△2,796)	(△3,915)	(△6,603)
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,089	△3,354	△7,998
（うち、配当金の支払額）	(△1,225)	(△1,761)	(△1,763)
現金及び現金同等物に係る換算差額	287	△230	△350
現金及び現金同等物の増減額	△1,249	△774	4,130
現金及び現金同等物の期首残高	25,744	21,586	21,586
新規連結による現金及び現金同等物の増加額	—	29	29
連結除外による現金及び現金同等物の減少額	—	△2	△2
現金及び現金同等物の中間期末（期末）残高	24,494	20,839	25,744



中間単体財務諸表

中間単体貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当中間期末 2004.9.30	前中間期末 2003.9.30	前期末 2004.3.31
資 産 の 部			
流動資産	72,870	70,383	72,015
固定資産	92,936	97,707	97,556
有形固定資産	58,465	61,521	60,316
建物	24,599	26,380	25,307
機械及び装置	6,786	7,179	6,783
土地	23,850	25,827	25,841
その他	3,228	2,134	2,383
無形固定資産	2,079	1,930	2,246
投資その他の資産	32,392	34,255	34,992
投資有価証券	11,808	10,866	12,166
その他	20,582	23,389	22,825
貸倒引当金	△0	△0	△0
資産合計	165,806	168,091	169,572
負 債 の 部			
流動負債	49,202	38,501	38,410
固定負債	29,087	46,017	45,512
負債合計	78,289	84,519	83,923
資 本 の 部			
資本金	18,969	18,969	18,969
資本剰余金	20,155	20,155	20,155
利益剰余金	49,379	44,867	47,127
その他有価証券評価差額金	885	352	1,244
自己株式	△1,872	△772	△1,849
資本合計	87,517	83,572	85,648
負債・資本合計	165,806	168,091	169,572

中間単体損益計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期 2004.4.1~2004.9.30	前中間期 2003.4.1~2003.9.30	前期 2003.4.1~2004.3.31
売上高	101,582	104,486	212,839
売上原価	63,011	65,798	132,158
売上総利益	38,571	38,687	80,680
販売費及び一般管理費	35,177	35,416	73,436
営業利益	3,393	3,270	7,244
営業外収益	788	1,256	2,025
営業外費用	601	679	1,254
経常利益	3,579	3,847	8,015
特別利益	5,655	362	1,333
特別損失	3,132	234	1,284
税引前中間（当期）純利益	6,103	3,975	8,064
法人税、住民税及び事業税	311	1,094	3,273
法人税等調整額	2,190	462	110
中間（当期）純利益	3,601	2,419	4,679
前期繰越利益	2,430	2,054	2,054
中間（当期）未処分利益	6,031	4,474	6,734



商品ラインナップ

即席麺

＜和風麺＞



「赤いきつねうどん」



「緑のたまご天そば」

ご存知マルちゃん和風麺シリーズ。今年も「赤いきつね」「緑のたまご」を中心に更に内容を充実させました。



「黒い豚カレーうどん」



「白いカモうどん」



「紺のきつねそば」

＜麺づくり＞



「麺づくり鶏ガラ醤油」



「麺づくり合わせ味噌」



「麺づくり濃厚豚骨」



「麺づくり鶏だし塩」

生麺の味わいを再現したノンフライ麺のカップ麺。スープの味に合わせて麺の太さを変え、よりラーメン屋さんの味わいを目指しています。

生麺

＜焼そば＞



「焼そば3人前」



「塩焼そば3人前」



「カレー焼そば3人前」

2004年7月にマルちゃん3食焼そばのシリーズとして、「カレー焼そば3人前」を新発売。

＜ラーメン＞



「北の味わい醤油とんこつ」



「北の味わい味噌とんこつ」



「北の味わい塩とんこつ」

ラーメン激戦区、北海道の新しい味の流れを再現した“北の味わい”シリーズ。2004年8月に「塩とんこつ」を加え、更に充実。

チルド食品



「えびシュウマイ」



「かにシュウマイ」



「いかたこシュウマイ」

2004年8月に味とデザインの改良により更に充実。

その他

＜米飯・スープ＞



「あったかごはん」



「あったか赤飯」

2001年発売。トレーに入った本格的な「ごはん」と「赤飯」。



「もずくスープ」

2001年発売。健康ブームによって順調に伸びているFDスープ。



「めかぶスープ」

＜炊き込みご飯の素＞



（鶏五目）



（きのこ）

お釜に入れるだけで1合炊きから作れる簡単便利な炊き込みご飯の素。



会社情報 (2004年9月30日現在)

■ 会社概要

創立 1953年3月25日
本社 〒108-8501
 東京都港区港南二丁目13番40号
 電話 (03) 3458-5111 (代表)
資本金 189億6,952万円
従業員数 1,601名 (男性1,071名 女性530名)
事業所数 工場6、冷蔵庫14、支店・営業所25
関係会社 国内関係会社33社
 (うち、連結子会社19社、非連結子会社13社、関連会社1社)
 海外関係会社10社
 (うち、連結子会社5社、非連結子会社4社、関連会社1社)

■ 役員

取締役会長	深川 清司	取締役	相楽 滋
取締役社長	堤 殷	取締役	久保 恭司
専務取締役	羽野 勝明	取締役	目羅 甚一
専務取締役	水流 良一	取締役	皆 孝之
常務取締役	井上 安雄	取締役	谷口 文夫
常務取締役	織田 睦彦	取締役	佐藤 勝英
常務取締役	成滝 勝郎	取締役	友田 吉生
		取締役	山内 寛
		取締役	山下 透
		取締役	三浪 博行
		常勤監査役	錦織 彰郎
		常勤監査役	北村 勝久
		常勤監査役	南 守之
		監査役	高良 明

■ 主要グループ企業

主要国内連結子会社

- | | |
|---------------|-----------------|
| ● 八戸東洋株式会社 | ● 築地東洋株式会社 |
| ● 甲府東洋株式会社 | ● 三協フード工業株式会社 |
| ● フクシマフーズ株式会社 | ● 伊万里東洋株式会社 |
| ● 東洋冷凍株式会社 | ● 株式会社フレッシュダイナー |
| ● サンリク東洋株式会社 | ● 株式会社東京商社 |
| ● 株式会社酒悦 | ● 銚子東洋株式会社 |
| ● 新東物産株式会社 | ● ユタカフーズ株式会社 |
| ● ロゼット株式会社 | ● 田子製氷株式会社 |
| ● 東部貿易株式会社 | ● 石狩東洋株式会社 |

海外連結子会社

- MARUCHAN, INC.
- MARUCHAN VIRGINIA, INC.
- MARUCHAN DE MEXICO, S.S. DE C.V.
- PAC-MARU, INC.
- SEAFREEZE LIMITED PARTNERSHIP

主要非連結子会社 他

- | | |
|---------------|----------------|
| ● ヤイズ新東株式会社 | ● 東和エステート株式会社 |
| ● 三幸養魚株式会社 | ● スルガ東洋株式会社 |
| ● 埼玉東洋株式会社 | ● 下田東水株式会社 |
| ● 扇島食品株式会社 | ● 海南東洋水産有限公司 |
| ● 湘南東洋株式会社 | ● 湛江東洋水産有限公司 |
| ● 舞洲東洋株式会社 | ● 台湾東幸食品股份有限公司 |
| ● 株式会社スズキデイリー | ● 青島味豊調味食品有限公司 |
| ● ミツワデイリー株式会社 | ● 天津三協食品有限公司 |
| ● 株式会社いらご研究所 | |



株式情報 (2004年9月30日現在)

株式の状況

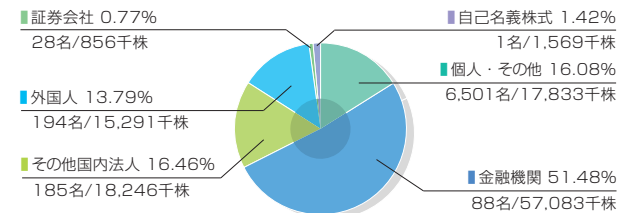
会社が発行する株式の総数 427,000,000株
 発行済株式の総数 110,881,044株
 株主数 6,997名

大株主の状況

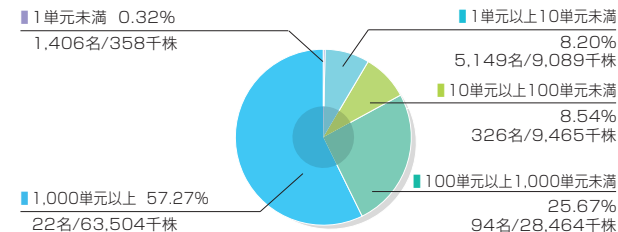
株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	13,337	12.39
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	11,732	10.90
田子製氷株式会社	6,021	5.59
マルちゃん持株会(従業員持株会)	3,123	2.90
株式会社三井住友銀行	2,674	2.48
日本生命保険相互会社(特別勘定年金口)	2,590	2.41
あいおい損害保険株式会社	2,561	2.38

(注) 議決権比率は小数点以下第2位未満を四捨五入して表示しております。

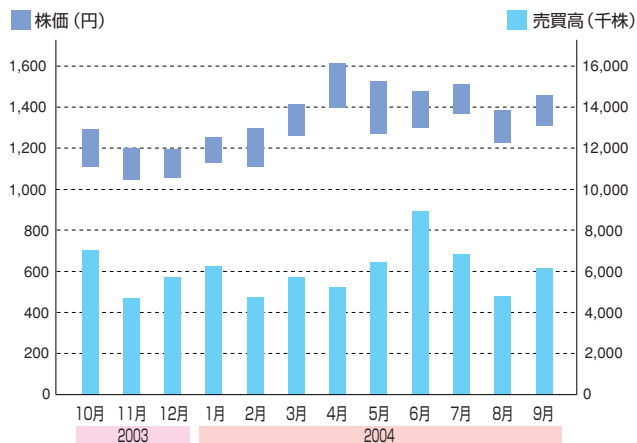
所有者別株式分布状況



所有株数別株式分布状況



株価及び売買高の推移 (東京証券取引所)



株主優待制度

当社では、株主の皆様への還元策の一環として、ご所有の株式数に応じて自社製品の詰め合わせを進呈する株主優待制度を導入しています。

2004年3月期の実績としましては、3月末現在、1,000株以上ご所有の株主様に対し、3,000円相当の自社製品を、3,000株以上ご所有の株主様に対し、5,000円相当の自社製品をそれぞれ7月に進呈させていただきました。



3,000円相当の2004年3月期の製品例

■ 株式事務手続きのご案内

当社の株式事務を取扱っております中央三井信託銀行では、株主の皆様の住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求及び配当金振込指定などの用紙のご請求を電話及びインターネットのホームページで24時間受付しておりますので、どうぞご利用ください。

● 電話によるご請求

受付フリーダイヤル 0120-87-2031（操作の方法は、音声案内にしたがってください。）

● インターネットによるご請求

ホームページアドレス http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

※証券保管振替制度をご利用の方は、恐れ入りますが、お取引の証券会社へご照会ください。

■ 株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
基準日	3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
公告掲載新聞	日本経済新聞
名義書換代理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 (証券代行事務センター) 〒168-0063 中央三井信託銀行株式会社証券代行部 電話 (03) 3323-7111 (代表)
同取次所	中央三井信託銀行株式会社全国各支店 日本証券代行株式会社本店・全国各支店
手数料	名義書換 無料 新券交付 株券の再発行の場合は1枚につき250円（消費税額を含む） 株券喪失登録申請 申請1件につき 9,030円（消費税額を含む） 株券1枚につき 525円（消費税額を含む）
1単元の株式数	1,000株
上場証券取引所	東京証券取引所（市場第一部）

マルちゃん 雑学館 Vol.1

「赤いきつね」(～誕生編)



(当時の製品)

赤いきつねの誕生は、今から26年前の1978年(昭和53年)8月。そのルーツは、1975年(昭和50年)に発売された「マルちゃんのきつねうどん」です。業界初の本格的即席和風カップ麺として大ヒットを記録し、その後競合対策におけるブランドイメージの強化により「赤いきつねうどん」として生まれ変わったのです。

赤いきつねの特徴は、よく味のしみた大きなおあげとだしの利いたつゆに腰のあるしっかりした麺。オーソドックスで飽きのこない味として、長い間親しまれてきました。これまでに幾度かのリニューアルを経て、今では日本を代表する和風カップ麺に育ちました。

東洋水産株式会社



〒108-8501 東京都港区港南二丁目13番40号

TEL (03) 3458-5111(代表)

ホームページ <http://www.maruchan.co.jp>



古紙配合率100%再生紙を使用しています



地球環境に配慮した大豆油インキを使用しています